

熊本地震で被災された皆さま方に心よりお見舞い申し上げます。

黒韋威胴丸(春日大社所蔵)が国宝に



国宝 黒韋威胴丸
(写真提供/春日大社)

文化審議会(宮田亮平会長)は去る三月十一日、四件の美術工芸品を国宝に、四十六件を重要文化財に指定することにつき馳浩文部科学相に答申した。官報告示を経て正式指定される。

国宝のうち一件が、甲冑類では十九件目となる奈良県・春日大社所蔵の黒韋威胴丸(兜・大袖付)である。俗称として「二号胴丸」と呼ばれている。

春日大社には楠正成のゆかりとされる胴丸が三体あり、一から三の番号を呼称としており、一号は既に国宝に指定済み

丸鎧(源義経奉納とされ「八艘飛び」の異名を持つ)を加えると四体目の新国宝指定となるが、そのうちの一体である広島県・厳島神社の黒韋威胴丸と比べれば、小札の頭部を漆で盛り上げ、整然とした美観に重点を置くことなどを筆頭に、大袖の冠の板が強い湾曲を持って外側に張り出すなどの特徴から、室町期のものと鑑みるのが自然で、挟角に閉じた鉾形

その社伝等から鎌倉時代末期とされている。また、手元の資料に乏しいのだが、最新の写真では大社内で発見されたものか、または細部の修繕と同時に再現されたものか、両肩の杏葉が付け加えられた様子も見える。

声を大にすべきは、一号胴丸・三号胴丸同様、楠正成の社伝を否定するとか封じ込める必要は全くなく、大社を訪れる参拝者の一人ひとりの心の中に花と咲か

NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL



No.29

2016.5.15
発行人 深海 信彦
発行所 全国刀剣商業協同組合 編集委員会
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10
新宿スカイプラザ1302
TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089
http://www.zentosho.com/

第29号編集担当
赤荻 稔 飯田 慶雄 伊波 賢一 大西 芳生
大平 将広 木村 隆志 嶋田 伸夫 清水 儀孝
生野 正 瀬下 明 瀬下 昌彦 玉山 真敏
土子 民夫 綱取 譲一 土肥 富康 服部 暁治
深海 信彦 松本 義行 賀賀 真吉 持田 具宏

せるまた別なストーリーは色あせてはならない。
ともあれ、室町期の甲冑類は神社仏閣の蔵品、個人の所蔵を問わず数多く確認でき、全体底上げ的にその価値を見直されることも考えられ、この国宝指定は素晴らしいニュースであり大いに歓迎したい。(網取譲一)

「登録証問題」を考える ②

事例③

刀剣を購入した場合、所有者変更届を届出後二十日以内に行うことが銃刀法で定められている。購入したすべての刀剣にやっていると、私の商いで毎月三十件はある。刀剣の仕入れ販売を業とする刀剣商にとってその負担は軽くない。

法令を遵守し、真面目に所有者変更届を行うと、登録証の記載内容と現物が相違している場合が少なからずある。

その場合、現物と記載内容を一致させるために交付した教育委員会に連絡し、私の所在する千葉県登録審査会で現物確認を行うことになる。その後、千葉県から交付先に審査結果が報告され、現物が登録台帳の刀剣と一致すると認

第29回通常総会は5月17日に開催

組合員の皆さまには日ごろより組合活動に深いご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

第二十九回通常総会は五月十七日(火)午前十時より、東京美術倶楽部において開催します。何かとお忙しい時期とは存じますが、万障お繰り合わせの上、ご出席くださいますようお願いいたします。なお、今年度は役員改選はありません。

総会終了後、交換会を開催します。組合成り行き品の売却があります。

通常総会の議事次第は左記の通りです。

- ①開会の辞
- ②出席状況報告
- ③理事長挨拶
- ④議長選出
- ⑤議事宣言
- ⑥資料確認
- ⑦議案審議
 - (第一号議案) 平成二十七年庶事業報告承認の件、平成二十七年度会計報告承認の件、監査報告(第二号議案) 平成二十八年度事業計画決定の件
 - (第三号議案) 平成二十八年度収支予算決定の件
 - (第四号議案) 役員報酬の件
 - (第五号議案) 経費の賦課及び徴収に関する件
 - (第六号議案) 平成二十八年度借入金残高の最高限度に関する件
 - (第七号議案) 一組合員に対する貸付、また一組合員の為にする債務保証残高の最高限度に関する件
 - (第八号議案) 役員改選に関する件(本年度は非改選)
 - (第九号議案) その他
- ⑧総会議事終了宣言
- ⑨閉会の辞

められる場合は、交付先が訂正交付を行う。

しかし一致しないとなると、千葉県が全国の教育委員会に照会をかけ、該当がない場合は千葉県で新規の登録となる。訂正は無料だが、新規交付の場合は収入証書代六千三百円を支払わなければならない。

あらかじめ相違がわかっていたら購入を控えることもできるが、購入後に発覚する場合があります。事務の増加のみならず、コスト負担も看過できない。加えて、千葉県では登録審査会が年に四回しか開催されない。売買できず、在庫として抱える期間が長期化する。

相違していた点は、銘の読み・書き違い、裏銘の記載漏れ、目釘穴数や寸法の違いが多い。銘に関して、ほとんどの事務方のミスと思える。

ミスを認めて訂正交付を行う場合はまだ良い。明らかに現物が一致していると思われながら、記載ミスを確認せずに現物不一致扱いにする教育委員会もある。納得がいらず抗議しても、取り合ってもらえない。「お役所仕事」を痛感する。

刀剣商にとって登録証問題は深刻である。所有者変更届の数は近年うなぎ登りに増えていると思われる。前述の状況が改善されなければ、積極的に登録証を訂正しようと思つことはできない。

暮らしているの皆さまが今、時代が見直され、便利になる今の時代、登録証も例外ではない。登録証問題が解消するよう、役所の柔軟な対応変化を切に望む。

事例④
(経緯) 昨年の夏ごろ、登録証の行

刀剣・書画・骨董

和敬堂

土肥豊久・土肥富康

〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-33-8510
FAX 0258-33-8511

http://wakeidou.com/

美術刀剣・刀装小道具商

やしま

齋藤雅稔・隆久・隆洋

刀装小道具通信販売目録「やしま」
年間10回位発行予定
購読料10回 2,000円(郵便切手可)

〒202-0022 西東京市柳沢6-8-10
TEL 042-463-5310
FAX 042-463-7955

金工・刀身彫刻・修理・諸工作一式

柳匠堂

柳村宗寿

岡山市北区平和町二一八
TEL 〇八六二二二二二二二二二二二九
TEL 〇八六二二二二二二二二二二二二二二九
工房 岡山市北区磨屋町七二二二
TEL 〇八六二二二二二二二二二二二二二二九
FAX 〇八六二二二二二二二二二二二二二二九

刀剣古美術

三峯美術店

町田久雄

埼玉県秩父市野坂町一十六六一二
西武秩父駅連絡通路町久ビル内
TEL 〇四九四二二二二二二二二二二二二二二二
FAX 〇四九四二二二二二二二二二二二二二二二

美術刀剣、小道具、武具類の
売買、加工及び御相談承ります

大阪刀剣会

吉井唯夫

大阪市中央区日本橋二一七七一
TEL 〇六一六六三二二二二二二二二二二二二二二二
TEL 〇六一六六三二二二二二二二二二二二二二二二
FAX 〇六一六六四四一五四六四

↑次ページに続く

方がわからない十振ほどの刀剣の買い取りの話があった。その中に「八代吉次」という身幅広く大切先、湾れに互の目を交え、刀身彫の入った豪壮な現代刀があった。何はともあれ発見届の手続きをしよう、客先の葛飾警察署に同行したが、「平成元年」の年紀が入っており、中心なども明らかに現代刀とわかるものだったため、本来、製作承認を経るべき一般的な現代刀に対して新規登録をするための発見届は出せない、と断られてしまった。

再登録などの手続きをするにしても、所持者が代替わりしており、元々あったはずの登録証の控えもなかったため不可能だった。現所有者および筆者から刀が発見された経緯などを述べたところ(先代の所持者が刀剣店から購入した際の領収書などがあつた)、警察からは事件性がないと判断され、一度持ち帰って東京都教育委員会と相談する許可を得た。

〈対応〉後日、東京都教育委員会に電話し、銘文や寸法などから全国照会することとなった。

幸いにも合致しそうな刀剣が熊本県の登録で四点見つかり、そのうちの一点は寸法が数ミリ以内の差であるという。しかしながら、その四点のいずれにも彫物がないという問題が発生した。こうなると、登録時の台帳に彫物の記載をしなかったか、後から入れたが申請し損ねたか、はたまた全く違う物件なのか、見当がつかなくなりました。

次に、吉次刀匠への連絡を試みた。吉次刀匠は全日本刀匠会には所属しておらず、自力での調査は困難であったが、刀匠同士なら交流があるのではと考え、若手刀匠に声をかけたところ、連絡先が見つかるも残念ながら既に他界されており、そのご子息も家業は継いではいなかった。

万策尽き、あらためて葛飾警察署に、上記のような状況なので何とか新規登録するわけにはいかないかと相談したところ、仮にここで発見届をし、都庁で登録証を発行できたとしても、その後登録証の台帳を東京都公安委員会が確認し、冒頭で述べた理由(平成元年と入った刀に新規という処理はできない)で、登録証発行自体が取り下げられる可能性が高いと伝えられた。

最後に、所有者の筋から手掛かりがないか模索した。当物件を取り扱った刀剣店は既に閉店しており、前述の四件の名義も刀剣店主および先代の所持者と合致しなかった。そこで、葛飾警察署と熊本県教育委員会の協力を得て、あらためて当物件に合致する可能性が最も高い登録番号の現所有者の所在の確認と、吉次刀匠のご子息に連絡を取り、吉次刀匠が作刀した資料などが残っていないか、また当物件が間違いなく本人が作刀したものであるかの確認を依頼した。それから数カ月後、葛飾警察署から連絡があった。

まず、当物件に該当すると思われる登録番号が、作刀されて以来名義変更されていなかった。また、吉次刀匠のご子息との連絡も取れて、当物件が本人の作であることが確認でき、さらに登録番号も一番近いもので間違いはないということだった。

これにてようやく本物件の正式な登録番号が判明し、これ以後で彫物を施したということで熊本県教育委員会に申請することが可能となり、近々東京都教育委員会での代理審査を経て、登録証が発行される見通しとなった。

登録証の日ごろからの控への作成と、名義変更の重要性をあらためて痛感した。関係各位にはお礼申し上げます。

(登録証問題研究会)

登録制度発足以前の 刀剣の所持について

終戦直後の日本刀は、誠に厳しい状況下にあったとされています。

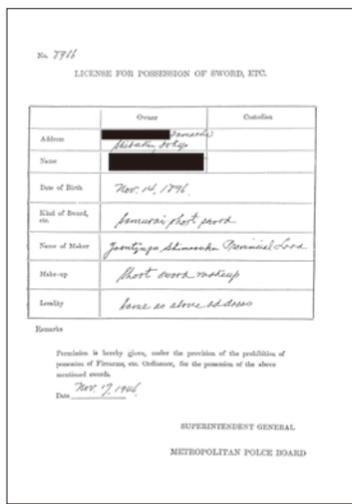
すなわち、連合国側が武器としてのもの中には日本刀が含まれており、しかも日本軍が使用した軍刀にとどまらず、民間人の所有する刀剣類すなわち私有財産であっても、これを武器と見なしてすべしと接収するという厳しいものでした。

昭和二十年九月二日付で連合国軍最高司令官から、「日本帝国大本営及び適当なる日本官憲は連合国占領指揮官(複数)の指示に基づき日本民間の所有するあらゆる兵器を蒐集、引き渡す準備をなすべし」とする命令が出されました。

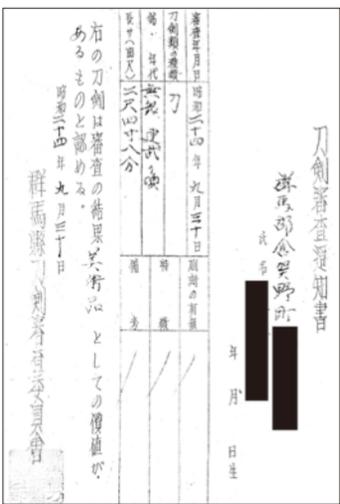
進駐軍が電波探知機で各家々々を捜索し、万が一にも日本刀を隠し持っていたことが発覚した場合、銃殺刑に処せられるとか、沖繩で強制労働をさせられる等々の恐ろしいデマが全国に広がっていたと、かつて聞いたことがあります。

このとき、どれだけの数々の刀が集められたか明瞭ではありませんが、膨大なものであったことは想像することができます。集められた刀剣類は、ガソリンをかけて焼却されたり、海中に投げ込まれたり、あるいは切り刻まれてスクラ

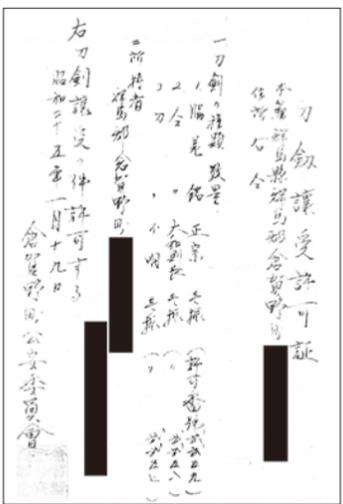
ップにされたり、戦利品として進駐軍将兵に持ち去られたなど伝えられています。その後、同年九月二十四日付で「美術品と看做される刀剣に関しては、善意の一般市民の所有に係る場合にのみ一保管を許される」ところとなり、翌年六月三日、勅



21年当時の所持許可証。裏面には英文で記されている



刀剣審査通知書。この結果に基づき許可証が発行された



刀剣譲受許可証。当初は売買譲渡禁止であったが、23年2月に至って可能になった。ただし公安委員会の許可が必要であった

た刀剣類が相当あって、審査を続けてほしいという声が多く、その後も継続されます。昭和二十五年まで続いたこの制度下で所持が許可された刀剣類は、全国で二十万本を超えます。

同年十一月十五日、新たに「銃砲刀剣類所持取締令」が公布され、登録制度が開始します。最も早いところでは、翌年二月に登録審査会が始まっています。なお、旧許可証は銃砲刀剣類登録証に書き替え登録を行わなければならず、その時点で全国に二十万二千余件あったとのこと。

旧許可証の有効期限は、昭和二十七年三月です。最近でもごくまれにはありますが、当時の許可証の付いた刀剣を見る機会があります。現在は無効であり、あらためて発見届を行い、新規登録を行わなくてはなりません。

現在、銃砲刀剣類登録証の発行数は平成二十八年四月現在、東京都だけでも三十一万五千三百五十余であり、全国では二百三十万余とも言われています。

戦後間もない「接収」時代から「所持許可」を経て登録証へと移り、今では日本刀は「鉄の芸術品」として世界中の愛刀家の皆さまに愛されています。

戦後の厳しい状況下のことは、公益財団法人日本美術刀剣保存協会発行の『刀剣鑑定手帖』の巻頭に詳しく記されています。本間薫山・佐藤寒山両先生はじめ、多くの先輩方のご尽力により日本刀が救われたことを忘れず、今後大切に伝えていくことをわれわれの責務だと思えます。

(寛吉也)

若者広場

外国からのお客さまとも
楽しみを共有したい

杉江晴生(杉江美術店)

杉江美術店の杉江晴生と申します。美術商の業界に入りまだ二年足らずの新参者でございますが、よろしくお願いたします。

二年前、父の元で働き始めた当初、何もわからず、この業界でやっていくのだからかと考えて毎日を過ごしておりました。

覚えることは品物の知識はもちろん、その時代背景、人物、場合によってはその所有者の情報など多岐にわたり、一生かかっても知り尽くせないといふに言われたことを、思い知らされました。お客さまから少しでも学ぼうという思いで自分には何を話しているのかと思う状態でした。

刀匠・鑢工などの名前を聞いても、どの分野に属しているかわからないため、時間があるときは本を片手に調べ物をする毎日でした。ただ最近になり、少しずつですが何とかお客さまとの会話、まともになってきたのではないかな、と感じております。

上野という土地柄、日ごろから人通りが多い場所であり、また近くのアメ横など商店街目当ての外国人も増え、多いときは店前を歩いている外国の方が半分近くになるのではないかと、思うようにな

なりました。

その中でも日本美術、特に刀に興味を持たれる方が割合多いように感じております。そんな影響か、弊店が珍しいのか、入店されて興味津々、刀剣を見て素直に満足を表す方、刀装具を見てこれほどというものなのかと真剣にご質問される方がいらっしやう、外国人にとって刀の人気はかなりのものだと感じております。

興味を持つことが最初の第一歩だと考えている私にとって、外国の方々が刀剣・刀装具に興味を持っていただける姿を見てうれしいうらみでござります。

現在でしてこれからも、多くの数寄者、また外国人の方々に刀剣類に興味を持っていただき、日本刀・刀装具の楽しみを共有できるように心がけていきたいと思っております。

■一筆啓上
ガッチリとした体格ながら、優しいような笑顔の好青年に初めてお会いしたとき、業界頭脳派、杉江雄治先輩のご子息と伺い、実直で立派な姿に驚きました。

若干の社会人経験を生き、実家で修業すると決めた平成元年生まれの若者は、市場でも積極的な参加を始め、目を細めるお父上に見守られて次の歴史を築いていくでしょう。

■杉江美術店 〒110-0005 東京都台東区上野四三十八 ☎03-3832-7803



杉江美術店の杉江晴生さん

古銭 切手・刀剣 売買 評価鑑定
株城南堂古美術店
代表
田中 勝憲
〒153-10051
東京都目黒区上目黒四-3-110
TEL 03-371-0167
03-371-0167
FAX 03-371-0167

シヨウちゃん 健脚商売⑥

東京都町田市 編

シヨウちゃん



今日の俺の行き先は町田。小雨の中、旗谷三男氏の「刀剣はたや」を訪ねる。

町田街道の分かれ道、目立つ所にその店はあった。聞けば自社ビルで、三階を旗谷氏自身が師範を務める戸山流居合道場に、塾生を育成している。一方で、一階の

店舗には地元客足が絶えることがない。店主の手が塞がっているときの、女性店員さんの自転車に理解あるアシストが何とも嬉しいではないの。

氏はスペインから戻って来たばかり。戸山流の指導でバルセロナ行脚だったという。欧州にも居合道が浸透している



居合道場とお店の前で旗谷さんと筆者

のは想像の通り。他の武道で言えば、柔道はJUDOとなり、選手権試合では今や日本人が簡単には勝たせてもらえない。武道同様か、俺の商う甲冑類など熱心で眼の効く愛好家は日本から欧州、北米に数が移ろうとしている。刀剣だってもしかしたら...

刀剣商リレー訪問②

株式会社むさし屋

業界を牽引してきたパイオニア

大阪府堺市三国ヶ丘、中央環状線の大通りに面し、株式会社むさし屋があります。今回は、皆さまよくご存じと思いますが、全国刀剣商業協同組合副理事長でもある猿田慎男さんをご紹介します。

猿田さんが刀剣商になるきっかけは、一九七二年にヨーロッパ旅行中、たまたま通ったノミの市で刀を見つけたことに始まります。剣道をやっていた(現在七段)こともあって日本刀に興味があり、思い切って購入し日本に持ち帰り

ました。その刀を大阪の刀剣商に持っていくと、意外な高値で買い取ってくれたそうです。

海外には敗戦後、わが国からたくさんの刀が流出しています。それを何とか日本に戻そうと、海外を飛び回る三十年の長い旅が始まります。パリ、ロンドン、ニューヨーク、シカゴ、ダラス、ロサンゼルスを取り、日本に帰ってこ

る。これを年六回ずつ繰り返していったことで、多いときは一カ所で百五十振の刀を購入し、輸入して

ールド・フランスで首位を六日間死守したスイスチャンピオン、エリック・メヒラー選手が日本の実業団チームに招かれたとき、彼はアメリカのセパン・イレブン自転車チームの欧州参戦のことを回想している。

「最初は皆、あいつらを笑っていた。聞いたこともない機材、へんてこなデザインของทีมカー。でも二年目で笑う奴はいなくなりました。三年目にはびじりようになったんだ。日本もそうなれると僕は信じている」。三十年の時を経て、メヒラーの時のような花を咲かそうとしている。

欧州の剣士たちが居合シーンを席巻する日、青い目や褐色の肌の同業者に振り出しを奪われる日、そんな日も来るかもしれないが、皆、覚悟はできているだろうか。

さて、往路で左折トラックに進路をふさがれた町田市金井のT字路、俺の記憶が正しければ十年前の忘れてはならない悲劇だ。この場所が旗谷氏の御次男は交通事故で若い命を落としている(御長男の大輔氏の活躍は今さら何を語る必要がある)。俺たちサイクリストの願いは皆一つ、交通安全に

いたというから驚きです。刀剣の逆輸入を始めた、まさにパイオニアと言えるでしょう。

昭和五十年には株式会社むさし屋として、今の地に店を構えます。店の一室ではオークションを開催したりもしたそうです。皆が逆輸入してきた刀を楽しみにしていたそうで、大いに盛り上がりつつあったこと。

長年海外を飛び回

いたというから驚きです。刀剣の逆輸入を始めた、まさにパイオニアと言えるでしょう。昭和五十年には株式会社むさし屋として、今の地に店を構えます。店の一室ではオークションを開催したりもしたそうです。皆が逆輸入してきた刀を楽しみにしていたそうで、大いに盛り上がりつつあったこと。長年海外を飛び回



道場や文化教室も運営するむさし屋の猿田慎男さん

ったあと、現在はより良い品をより多くの方々に愛蔵していただきたいと、日本国内を奔走しています。猿田さんの功績としては、刀剣界に新しいシステムを導入してくれたことも忘れてはいけません。今は常識となっている伝票の機械化や、小伝票の三枚複写、セリの二人制、これらは大阪の天満会が発祥で、全国に普及していきました。新しいものを取り入れるバイタリティーと柔軟な発想では、猿田さんの右に出る者はいないのではないのでしょうか。

猿田さんは先づ、大阪刀剣業組合の代表に就任されました。訪

9 大隅俊平美術館 刀匠の息づかいが聞こえる

群馬県の太田市立大隅俊平美術館で「春の刀剣展」が開催されている。

大隅俊平美術館は大隅刀匠の作品を常設展示する施設として、太田市が刀匠の自宅を改修し、平成二十四年十一月に開館した。

当館の資料から大隅刀匠の経歴を記すと、昭和七年太田市に生まれ、同二十七年宮入昭平刀匠に入門し、作刀を学ぶ。三十三年独立。その後、新作名刀展において最高位の正宗賞を三度受賞する。六十二年には太田市の名誉市民に推挙され、平成九年には重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定される。「直刃の大隅」と称賞され、同二十一年に逝去するまで、直刃一筋に精進した。

入館すると、柔らかい空気に包まれる。まず目に入ったのは、刀の製作に使うすべての道具類。向かい側には、刀の原料から完成までの全工程が実物を使って順に展示されている。

刀の展示室に入ると、そこは別世界である。十三振の作品が並ぶが、凛とした空気が相まって独特の雰囲気を感じる。大隅刀匠は、来国俊や備中青江派などの古作を理想として研鑽を積んだという。残された本人の手記によれば、直刃を目指すようになった契機は、本間薫山氏との出会いであり、直刃への道を託されたからだとしている。

正面に正宗賞受賞の太刀が飾られている。刃長八〇・八センチの青江を狙った作で、清涼感にあふれ、精緻な鍛えと地刃の冴えが見事である。

すべての作品を見て外に出ると、隣に鍛刀場が当時のまま残されていて、内部が見えるようになっている。

美術館の前に広がる庭園も素晴らしい。そのエリアが、まさに刀の聖地とも言べき雰囲気を感じさせている。

爽やかな体験であった。(赤荻 稔)

■太田市立大隅俊平美術館 〒373-0036 群馬県太田市由良町三〇五一
〇二七六二〇六八五五 <http://www.osumi-museum.jp/index.html> 七月十日まで「刀匠大隅俊平と二人の鑄匠」を開催。

問の折に、ぜひご賞味あれ。

株式会社むさし屋 〒59000
0255 大阪府堺市堺区向陵東町一
二一九 ☎0722511860

アオバ企画(株)
高橋 一

〒130-0012
墨田区大平四一九二一三〇八
TEL 〇三三六二二二二二
FAX 〇三三六二二二二二
E-MAIL aobakk@pb8.so-net.ne.jp



旧大隅邸の太田市立大隅俊平美術館。右手は鍛刀場

刀 剣 界

特別寄稿

高倉健さんと刀匠

塩野米松 (作家)

間もなく俳優・高倉健さんが亡くなって一年が経つ。彼が亡くなったとき

中国の映画監督のチャン・イーモウ氏がコメントを寄せていた。おおよそこんな内容だった。

「高倉さんと二本の映画を撮っただけですが、彼が私に与えてくれた影響はとても大きなものです。高倉さんは私に日本刀も贈っていただきました。刀は持ち主を守ってくれるものだ」と聞かれています。その日本刀は今も私のオフィスの一メートルと離れていないところに置いてあります。私は高倉さんが私を守ってくれるような気がします。」

高倉さんはチャン・イーモウ監督と『単騎千里走る』(二〇〇五年)という映画を作っている。「一本の映画を撮っただけ」というのは、そのことである。

その後も二人の交流は続き、チャン・イーモウ監督が北京オリンピックの開会式・閉会式の演出を引き受けたときに、高倉さんは自ら刀匠に依頼し一振の日本刀を打ってもらい、励ましの意味を込めてそれを贈った。

高倉さんに贈呈用の刀の製作を依頼されたのは、長野県坂城町に住む刀匠・宮入小左衛門行平師。昭和三十三年生まれ、現在五十八歳。父は人間国宝だった刀匠・宮入行平。十九歳の時、その父が死去。兄弟子に当たる藤安将平に弟子入りし、腕を磨き、平成十二年に四十三歳の若さで財団法人日本美術刀剣保存協会から新作刀展覧会無鑑査の認定を受けている。

高倉さんは日本刀に造詣が深く、自らもお気に入りの刀を所有していた。刀を手入れする父親の姿が目に焼き付き、刀への憧れがあったという。研究熱心で、多くの名刀を見てきた高倉さんは刀に随分こだわりを持っていた。宮入刀匠との付き合いの始まりには縁があった。高倉さんらしさを語るものがあるで紹介する。

奉納刀など、ごくわずかのチャンスしかなかった。

講和条約締結の後、日本刀製作は美術刀として認められ、復活することになるが、その運動の中心になっていたのは佐藤寒山、本間真山という刀匠研究家たち。刀鍛冶たちを励まし、再び作刀の道へ邁進させるのに二人の力は大きかった。現在玉鋼を作っている踏鞴の復活、多くの名刀の研究書、名刀図鑑類を完成させたのもこの人たちである。宮入行平氏も二人のお世話になっている。

因みに現在、宮入小左衛門行平氏の鍛刀所の扁額は寒山氏の書いたもの。昭和三十三年、宮入行平氏は日本刀製作者として、重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定された。寒山氏の息子が映画監督の佐藤純彌氏。『野生の証明』『人間の証明』『君よ憤怒の河を渉れ』など高倉さんとの仕事も多い。そうした伝もあって、寒山氏から高倉さんが宮入刀匠の刀に関心があるという話が来た。

宮入行平氏は昭和四十七年に紫綬褒章を受章、東京・松坂屋で個展を開いた。そのときの刀一振を松坂屋の外商部が高倉さんに持っていた。じつと見た上で、高倉さんはイメージに合わないで、今回は遠慮しますと断られた。外商の人は「値上がり間違いないので買われた方が得だ」という意味のことを述べたそうだが、頑なに断られたとか。

その話を聞いた宮入行平氏は「やっぱり一流の人は違う。自分で欲しくないものはどんなものでも要らないと断られるのだ」と感心していた。高倉さんの小左衛門行平氏は覚えていた。それから二十年ほど経ったある日、高倉さんは渋谷のビンテージ物のジーンズなどの輸入衣料を扱うお店に立ち寄った。最前列にしている店、よく訪れたらしいが、ある日店主とこんな話になったそう。店主が「自分の友人で刀鍛冶がいる」と。高倉さんが刀に関心を持っていることを知っている話だ。そのとき高倉さんは「故郷はどこ?」と聞いた。「信州です」という答えに「その人は宮入って言う人かい」という話になって、一度会ってみたいと高倉さんが言い出し、直接電話をくれたのだという。

「俳優の高倉です。深く縁を感じています」という話になって、その友人の渋谷の店で、宮入小左衛門行平氏は高倉さんと会った。さまざまあって、平成七年に高倉さんは宮入氏(息子の方、父は既に死去していた)に刀を頼んだ。その時に、こんなものがいいと持ってきたのが同田貫という肥後の刀だった。バランスのいい、身幅のある江戸時代の体配だった。高倉さんは故郷である九州の刀を愛好していた。自分でも気に入った幾振かの刀は買い求めて持っていた。

平成九年、宮入氏は出来上がった旨連絡し、白鞘に入った刀をお見せした。精魂込めた、自信の作であった。じつと見て、考えていた高倉さんは父上の刀を見たときと同じ言葉を書かれた。「イメージと違うのだ」と。

その件はそれで終わったのだが、その後高倉さんは亡くなるまでの間に友人へのプレゼントや記念に十振ほどの短刀などを頼んで買ってくれた。宮入氏を食事誘ったり、坂城に訪ねてきたり、一緒に博物館に刀を見に行ったり、高倉さんは宮入氏(本名を恵と言った)を「恵ちゃん」と呼んで親しくして下さった。宮入氏の個展の目録には、言葉を寄せてくれた。平成二十年、坂城に高倉さんが訪ねてきた。その日は珍しく時間が取れず半日ほど滞在し、ゆっくり話したり刀を見たりした。何かの弾みで、十年ほど前に頼まれて打った刀の話が出た。「ご覧になりますか?」宮入氏は聞いた。驚いて、じっくり見た。そして「美しいねえ。これももうよ」という話になった。

高倉さんのために打ったからというのもあったが、その刀は自分でも手応えを感じていたのだ。自分の基準として残してあったのだという。物づくりに分岐点が生ずる。そのたびに悩み、試行するが、自分を確かめるために振り返る基準の仕事というのが必要になる。そのために手放さずに手元に置いてきたのだ。

高倉さんは購入したが、その刀は持ち帰らずに、拵を作ることにした。刀匠が打ち、研師が研ぎ、銘を打たれて刀は登録される。多くの場合、そこで白銀師に渡り、ハバキという鞘に収めるとき必要な金具を作る。それがなければ鞘に収まらないし、柄も出来ない。ハバキが出来て白鞘が完成する。そのままの状態でもいいのだが、侍たちが持って歩いた状態の刀は「拵」という姿が最終形である。

高倉さんは再会したその刀を「拵まで」作って欲しいと頼んだのだ。どんな拵にするか、話は弾み、肥後拵という形式にすることに話はずまされた。そうしたときの話は楽しそうだったという。

拵にはさまざまな金具や鐔、金工、組紐、塗師の仕事が関わってくる。弁や小柄という物も付く。現代作家の品物を特注することもあるし、年代物の美術品を探し出してそれを使うこともある。

高倉さんの贈り物はそこに収蔵され、機会を設け展示されることになった。一回目は二〇一五年十月に「高倉健さんからの贈り物」展として紹介された。そこには「縁の刀」も展示された。宮入小左衛門行平氏の仕事に関して、私が長い取材の末に今最終原稿の整理中である。この高倉さんとの話もその中で聞いたことだ。その本には研師で人間国宝である本阿彌光洲氏、白銀師、鞘師、塗師、柄巻師の刀職五職の聞き書きなどを一緒に紹介するつもりで取材を終えてある。この中には宮入氏と高倉氏の魂の付き合いの様子も詳しく触れるつもりである。

高倉さんの死の後、遺族が高倉さんの遺志を継いで、高倉さんが所有していた刀剣類の全てと刀剣に関する書籍類を宮入氏に届けた。

坂城町には「鉄の展示館」という施設がある。宮入行平が亡くなった後に、小左衛門行平氏はその多くを町に寄付して父の仕事を継いでいるようにしたのだ。そのために町は施設を作った。そこで定期的に特別展を開催し、刀鍛冶の町を標榜してきたのだ。高倉

高倉さんの死の後、遺族が高倉さんの遺志を継いで、高倉さんが所有していた刀剣類の全てと刀剣に関する書籍類を宮入氏に届けた。

坂城町には「鉄の展示館」という施設がある。宮入行平が亡くなった後に、小左衛門行平氏はその多くを町に寄付して父の仕事を継いでいるようにしたのだ。そのために町は施設を作った。そこで定期的に特別展を開催し、刀鍛冶の町を標榜してきたのだ。高倉

高倉さんの死の後、遺族が高倉さんの遺志を継いで、高倉さんが所有していた刀剣類の全てと刀剣に関する書籍類を宮入氏に届けた。

坂城町 鉄の展示館
〒389-0601 長野県埴科郡坂城町坂城6313-2 ☎0268-82-1128
http://www.tetsu-museum.info/

高倉健と宮入小左衛門行平の絆

昨年、遺族より寄贈された故高倉健さん遺愛の刀剣類と日本刀専門書籍などをお披露目します。また、健さんがかつて所蔵していた相州秋広・井上真改も展示し、刀匠との交流、高倉さんが日本刀に寄せる思いが伝わる展示です。

会期：4月9日(土)～6月12日(日)
〈イベント〉

①健さんが歩いた坂城の道「散策ツアー」
健さんが「スイスみたいだね」と語った坂城の散歩道を、宮入小左衛門行平刀匠と一緒に散策します。最終地の宮入鍛刀道場では、健さんお気に入りのお菓子とお茶を。
5月15日(日)、6月12日(日)

②宮入刀匠のギャラリートーク
宮入刀匠が健さんの思い出の作品を紹介しながら、ご案内します。
4月17日(日)、5月22日(日)

※申し込み、詳細の問い合わせは鉄の展示館まで



刀職紹介 第20回

〈鞘師〉森井敦央さん



森井敦央さんは昭和五十五年、鳥取県米子市に生まれる。平成十一年より、拵・鞘製作の第一人者である高山一之師の元へ弟子入りする。厳しい修業で腕を磨きながら、東京国立博物館の約八百振の刀剣の保存修復に従事する。十二年間の修業を経て、現在の神奈川県横浜市に独立。

(公財)日本美術刀剣保存協会主催「刀剣研磨外装技術発表会」白鞘の部で優秀賞、(公財)日本刀文化振興協会主催「新作日本刀刀職技術展覧会」白鞘の部で金賞第一席など多数受賞され、平成二十六年には大英博物館にて日本刀の調査・修復を行う。その実力は確かなものである。

鞘の製作で特に気をつけていることは、大切な御刀を保存していく上で一番大切な技術である掻き入れ。御刀が一振一振違つように掻き入れもすべてその刀に合わせてベストな状態で保存できるように丁寧な作業を心掛けている。

材木選びにも気を使い、五年から十年、あるいはそれ以上寝かせた材料を使用する。お客さまからお預りした刀剣を守っていくこととは、鞘作りを仕事とする者として大きな喜びに違いありません。なお、代金については、相談してみてください。

連絡先 ☎241-0823 神奈川県横浜市旭区善部町三七七 ☎四五四四二一三七七五

〈研師〉松村壮太郎さん



松村壮太郎さんは昭和五十四年、静岡県島田市に生まれる。十七歳のとき、海外への強い憧れと、独りでじっくり将来を考えるためにアメリカに留学。帰国後、十九歳で父親の兄弟弟子である無鑑査の柳川清次師に弟子入り、十年間の厳しい修業で腕を磨き、千葉県船橋市にて独立されました。

公益財団法人日本美術刀剣保存協会が主催する「刀剣研磨外装技術発表会」にて数々受賞されるなど、今後の活躍が期待される若手の一人です。

先人たちが守り続けた文化により、日本刀が最高の格式を与え続けられてきたことへの畏敬の念とともに、自身が職人として次世代へ伝えていかなくてはならない責務を胸に、日々仕事に向き合っているそうです。

現在、特に若年層が日本刀の美に接する機会が減ってしまっている現状を憂慮し、刀匠界の若手が「鉄芸」に集い、啓発活動を行っています。その一員でもあります。研磨の代金については、状態や長さによって異なるので、相談してみてください。

連絡先 ☎740061 千葉県船橋市古和釜町八三七 ☎〇四七四六九八二〇七

ブック・レビュー BOOK REVIEW

最強軍団「赤備え」に託された夢と運命

『甲州赤鬼伝』

霧島兵庫著 学研パブリッシング 定価二五二二円(税込み)

「甲州には、鬼が棲むといふ。」

その鬼は、全身を紅に染める赤鬼。歯向かう者は容赦なく滅ぼされ、群れなす赤鬼たちの通り過ぎたあとには死屍累々、首をなくした骸の山が、血の河に身を沈めるのが常であった。

この赤鬼の猛威はやがて日本六十余州にあまねく知れわたる人々は恐れと畏敬の念を込めて、彼らをこう呼びはじめたといふ。

「赤備え、と。」

「赤備え」とは、甲州武田軍の最強部隊、山県三郎兵衛昌景率いる、朱漆の具足を揃い纏う三千人のことである。

天正三年五月、設楽ケ原の戦より話は始まる。武田勝頼の甲州武田勢一万五千、織田信長と徳川家康の連合勢力三万八千が戦い、武田勢が敗れるのだが、このとき、赤備えの頭領「甲州の赤鬼」と言われた山県昌景が悲惨な最期を遂げる際、十四歳で初陣を飾った息子昌満に遺言を残す。

「鬼となりて、名を天下に。」

この言葉が昌満生涯の呪いとなり、話が展開していくのだが、とにかく面白い。山県昌満十四歳から二十歳までの立身出世譚である。十四歳で武田家最強の軍団を継承してしまった昌満が、「最強」の重責に苦しめられつつも、木曾義昌と出会い、山県家臣団の盛り上がりもあり、赤備えを率いる赤鬼として実力を認められていく。

しかしながら、その昌満の前に常に立ちはたかるとのが穴山信君、後の梅雪である。穴山信君

は武田家親族筆頭であり、勝頼の信頼も厚いのだが、既に徳川家と通じる裏切り者であり、武田家滅亡の折も徳川の軍勢を先導していたのである。後に本能寺の変で、家康が伊賀越えの際、梅雪を殺してしまったことを考えると、戦国時代の複雑さを感じてしまう。

武田家の滅亡とともに山県昌満の運命も二十歳にして尽きてしまふのだが、その後の赤備えの軍団はどうなってしまうのか。この物語には裏主人公がいる。昌満は設楽ケ原の戦で、初陣同士の宿敵、井伊万千代(後の直政)

この万千代こそが元服後、直政と名を改め、やがて赫々たる武勲に恵まれ、扶桑随一、赤備えの勇将として英明を馳せることになるのである。山県昌景が託し、昌満が紡いだ赤い夢が、皮肉なことに井伊直政に受け継がれ、大輪の花を咲かせることになるのは…。歴史には不思議なことが多いのです。(持田具宏)

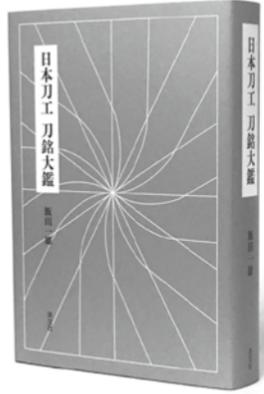


凶版を駆使し四千工の詳細を尽くす 『日本刀工刀銘大鑑』

飯田一雄著 淡文社 定価二万七〇〇〇円(税込み)

刀剣界に身を置き、飯田一雄氏の名前を知らない人はまずいないでしょう。『刀剣春秋』新聞や『愛刀』誌を発行、『井上真改大鑑』や『越前守助廣大鑑』の著作に携わるなど、執筆された著書に挙げれば枚挙に暇がなく、刀剣研究家としての活動は五十年の長きに及んでいます。

刀工が活躍した時代、国系統、流派、師弟関係や移動、受領銘や称号など、刀工のすべてがこの一冊に収まっています。また刀工の活動履歴や作風についても詳しく解説されています。付録では、刀工索引や画数での索引、主要刀工系図



刀剣に関する専門用語、刃文や地鉄の解説なども多岐にわたっています。五十音順で豊富に配された刀工銘見出しによる索引の便利さと、現物と比較しやすい拓写押形や刃文図掲載による重宝さを備え、ま



氏その活動の成果と、収集した資料を下敷きとし、最新の研究成果を加えて集大成したものが本書です。古刀期から現代までの約

刀剣に関する専門用語、刃文や地鉄の解説なども多岐にわたっています。五十音順で豊富に配された刀工銘見出しによる索引の便利さと、現物と比較しやすい拓写押形や刃文図掲載による重宝さを備え、ま

刀剣類を扱った古書の価値崩れが大きい昨今ですが、銘鑑・辞典の類は価格を保っています。それだけ身近で使いやすいということなのだと思えます。本書はそれらに次ぐ大きな資料として、永く光彩を放ち続けることでしょう。(深海雄一)

サッカーに明け暮れた 青春の日々 木村義治(木村美術刀剣店)

私の育った埼玉県北部の児玉町は「サッカーの町・児玉」と言われ、小中高とも体育の授業は、ほとんどサッカーでした。そんな環境の下で中学はサッカー部に入り、サッカー漬けの毎日。土日にも試合(トーナメント)が多く、浦和高校のグラウンドまで遠征したものです。県立児玉高校でもサッカー部に属し、土日はやはり浦和の高校や大宮の県営グラウンドに出かけて試合をしていました。児玉町は、県南に出かけるとき

は一番遠く、マイカーもスクールバスもない時代でしたので、本庄駅までバスに四十分くらい乗り、そこから浦和まで電車で一時間以上、さらに徒歩で会場に…試合の前に地の利で負けていました。それに、中学でサッカーをやっていた児玉高校の部に入ったのは二人だけ。関係者からは「今年は大変だ」と言われていました。二年生の後半に、中央大学でサッカーをやっていた新井つとむ先輩がコーチとしてやってこられました。当時、中央大学サッカー部

「刀剣女子」に会いに行く

日本美術刀剣保存協会京都支部初めての女性会員として昨年入会し、現在、刀剣の勉強を頑張っている若い女性、いわゆる刀剣女子にインタビューしました。小野桂子さん、二十代の女性でお仕事はIT関連の技術職をなさっているとのこと。中学・高校生のころから歴史が大好きで、博物館の特別展などに通ってきた小野さん。刀剣との出会いのきっかけは、漫画やゲームといった媒体だったそう。

好きなタイプ(刀剣)は初めは、南北朝期の身幅広く切先の伸びた相州物だったそうだが、勉強するに従って上品な姿の京物、特に来派の作品が好きになってきたそう。とても頼もしく感じた。昨今の刀剣女子ブームについても話が膨らんだ。ブームはしませんが刀剣に関心を持つ入り口にすぎず、その後の取り込みは非常に難しい。小野さんも自分の父親より年上の先輩方に囲まれ、最初は質問をすることができなかったそうだが、支部会員の親切で丁寧な説明を聞くうちにどんどん好奇心に火が付き、現在では貯金して刀剣を所持したいというところまで熱中している。



刀剣女子が支部を活性化させる!?

刀剣の勉強方法を伺ったところ、刀剣書籍は専門書が多く、簡単に書店で購入することも難しく、また高価なために、勉強したくてもできないという悩みがあるそう。そこで、電子書籍に変換して、より多くの人が読んでほしいと、刀剣愛好家の増加を促してはどうか、とのアイデアも頂き、やはり若い世代の感性はとても斬新で参考になった。話はさらに進展し、刀剣文化をいかに保持し、次の百年に伝えていくかとの話題になった。これからはインターネットを活用し、クラウドファンディングの成功事例にも見よう、全く別の角度からの賛助を集めたりその情報を発信したりしていくことで、より多くの方に関心を持っていただき、成果につなげていってほしいとの意見も伺えた。われわれも刀剣女子を一時の流行というだけで片付けず、若い世代の違った視点や意見を取り入れ、価値観を共有することができれば、日本刀文化の将来も明るく感じられるのではないだろうか。(玉山真敏)

刀 剣 界

平成28年5月15日発行(隔月刊)

刀剣業界の情報紙である本紙では、記事を募集しています。ニュースや催事情報、イベント・レポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。

NEWS & TOPICS

霊峰富士の麓に 日本刀鍛錬所が誕生

四月九日、内田義基刀匠が霊峰の麓に営む富士日本刀鍛錬所の火入れ式が執り行われた。

内田刀匠は昭和四十四年生まれ。平成元年、某刀匠に入門するも、修業生活のつらさに挫折。その後、数々の過酷な労働を経て陸上自衛隊に入隊、また自転車競技スプリント種目で全日本実業団・国民体育大会・マスターズ世界選手権に出場するなど、ひたすら精神と肉体の錬磨に専心し、再起を期してきた。



火入れ式に臨む内田義基刀匠 (正面の白装束)

そして平成十六年、宮崎県の松葉國正刀匠に入門、文化庁の美術刀剣刀匠技術保存研修会を修了し、五年間の修業の後、ついに美術刀剣類製作承認を得ることができた。さらに同二十三年には東京の吉原義一刀匠に入門し、精進を重ねてこの日を迎えたのである。

火入れ式には百名を超える関係者が列席した。内田刀匠自身、総本山聖護院門跡配下の山伏という現代では希有な「修験鍛冶」であるが、京都から中村覺祐執事長以下が臨席され、修験道の儀式が披露された。

二時間以上に及ぶ火入れ式の後、会場を移して直会が開かれた。席上、宮城泰岳庶務部長から「聖護院と山伏」と題する興味深い講話があり、続いて長唄「小鍛冶」、コントバス演奏、富士浅間流僧兵抜刀術などが披露された。内田刀匠の声涙下る決意の表明は出席者の心を揺さぶり、「ガンバレ」の掛け声でセレモニーはお開きを迎えた。(十子民夫)

NEWS & TOPICS

「出雲國たたら風土記」が 日本遺産に認定される

文化庁は四月二十五日、平成二十八年度の日本遺産 (Japan Heritage) 十九件を認定した。昨年度の十八件に続く二回目の認定で、二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて百件程度認定する予定という。

日本遺産に認定されるのは、地域の歴史的魅力や特色を通じてわが国の文化・伝統を語る「ストーリー」。ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に発信することにより、地域の活性化を図ることを狙う。



菅谷たたら高殿 (写真提供/雲南市)

今回の認定の中で注目されるのは、「出雲國たたら風土記」。約千百年が生んだ物語。島根県雲南・安来の両市と奥出雲町でつくる「鉄の道文化圏推進協議会」が申請した。

「出雲國たたら風土記」は、約千四百年前から続く「たたら製鉄」をめぐるストーリー。三市町には重要有形民俗文化財で映画「ものけ姫」の舞台のモデルになった「菅谷たたら山内」(雲南市横町)や「日刀保たたら」(奥出雲町大呂)など、たたら製鉄に関する有形・無形の文化財三十件がある。

また、優れた和鉄が生産されただけでなく、原料の砂鉄採取跡地を棚田に再生し、仁多米や出雲そばなどの食文化を生んだことや、鉄の交易によって栄えた結果、茶道や民謡「どじょうすくい唄」などの文化も育み、現在も受け継がれていることが評価された。

NEWS & TOPICS

東ティモール大統領が刀剣鑑賞

三月十三日から十六日まで、東ティモール民主共和国の国家元首タウル・マタン・ルルク大統領が美術訪問賓客として来日しました。通称東ティモールは二〇〇二年にインドネシア(国際法上はポルトガル)から独立した二十一世紀最初の独立国です。オーストラリア大陸の北西に位置するティモール島をインドネシアと二分した東側に同国は位置しています。

来日三日前に東ティモール大使館より浅草の晴雅堂清水(清水儀孝)さんへ、大統領の希望にて刀剣を鑑賞させていただきたいとの連絡が入り、その機会が設けられました。その折のことを後日、清水さんに取材しました。

十三日、成田空港に到着したルルク大統領と大統領夫人、副大統領らの一行二十名は空港から直接、晴雅堂さんへ来店されました。日本で最初のおもてなしとなるので、和菓子と抹茶を用意しました。二〇二二年に大統領に就任し、来日が初めてのルルク大統領は、初めての抹茶を「ジャパニーズテイ、デリシヤス」と言い、おいしそうに飲み干されたそうです。

続いて、目的である刀を手に取り鑑賞していただきました。以前から日本刀に興味を持っていたそうで、希望が叶った瞬間です。鑑賞していただいた刀は「丁子刃の一字文字でしたが、「ビュティフル」を連発されて刀の美しさを堪能、さまざまな質問も受けました。英語での通訳を交えた会話でしたが、大統領の目は刀から離れることなく終始、真剣なまなざしだったそうです。

店内に飾ってある甲冑にも興味を示されたので、兜をかぶっていたかと先ほどまで刀を手にした緊張から放たれたのか、ニコニコほほえむ大統領が印象的でした。その後、浅草寺裏手より正面に回って参拝され、雷門から公用車にてお帰りになされました。

「過密なスケジュールの中、当店には約一時間の滞在でしたが、日本文化に触れていただいたことをうれしく思います」と清水さん。ルルク大統領は十五日、天皇陛下と皇居で会見し、また安倍晋三首相と総理官邸で会談、両国の絆を深めて十六日に帰国されました。(嶋田伸夫)

三月十三日から十六日まで、東ティモール民主共和国の国家元首タウル・マタン・ルルク大統領が美術訪問賓客として来日しました。通称東ティモールは二〇〇二年にインドネシア(国際法上はポルトガル)から独立した二十一世紀最初の独立国です。オーストラリア大陸の北西に位置するティモール島をインドネシアと二分した東側に同国は位置しています。来日三日前に東ティモール大使館より浅草の晴雅堂清水(清水儀孝)さんへ、大統領の希望にて刀剣を鑑賞させていただきたいとの連絡が入り、その機会が設けられました。その折のことを後日、清水さんに取材しました。十三日、成田空港に到着したルルク大統領と大統領夫人、副大統領らの一行二十名は空港から直接、晴雅堂さんへ来店されました。日本で最初のおもてなしとなるので、和菓子と抹茶を用意しました。二〇二二年に大統領に就任し、来日が初めてのルルク大統領は、初めての抹茶を「ジャパニーズテイ、デリシヤス」と言い、おいしそうに飲み干されたそうです。続いて、目的である刀を手に取り鑑賞していただきました。以前から日本刀に興味を持っていたそうで、希望が叶った瞬間です。鑑賞していただいた刀は「丁子刃の一字文字でしたが、「ビュティフル」を連発されて刀の美しさを堪能、さまざまな質問も受けました。英語での通訳を交えた会話でしたが、大統領の目は刀から離れることなく終始、真剣なまなざしだったそうです。店内に飾ってある甲冑にも興味を示されたので、兜をかぶっていたかと先ほどまで刀を手にした緊張から放たれたのか、ニコニコほほえむ大統領が印象的でした。その後、浅草寺裏手より正面に回って参拝され、雷門から公用車にてお帰りになされました。「過密なスケジュールの中、当店には約一時間の滞在でしたが、日本文化に触れていただいたことをうれしく思います」と清水さん。ルルク大統領は十五日、天皇陛下と皇居で会見し、また安倍晋三首相と総理官邸で会談、両国の絆を深めて十六日に帰国されました。(嶋田伸夫)

続いて、目的である刀を手に取り鑑賞していただきました。以前から日本刀に興味を持っていたそうで、希望が叶った瞬間です。鑑賞していただいた刀は「丁子刃の一字文字でしたが、「ビュティフル」を連発されて刀の美しさを堪能、さまざまな質問も受けました。英語での通訳を交えた会話でしたが、大統領の目は刀から離れることなく終始、真剣なまなざしだったそうです。店内に飾ってある甲冑にも興味を示されたので、兜をかぶっていたかと先ほどまで刀を手にした緊張から放たれたのか、ニコニコほほえむ大統領が印象的でした。その後、浅草寺裏手より正面に回って参拝され、雷門から公用車にてお帰りになされました。「過密なスケジュールの中、当店には約一時間の滞在でしたが、日本文化に触れていただいたことをうれしく思います」と清水さん。ルルク大統領は十五日、天皇陛下と皇居で会見し、また安倍晋三首相と総理官邸で会談、両国の絆を深めて十六日に帰国されました。(嶋田伸夫)

<p>美術日本刀・鐔・小道具・甲冑</p> <p>日本の伝統文化を彩る</p> <p>JAPAN SWORD CO., LTD.</p> <p>(株) 日本刀剣</p> <p>伊波賢一 Ken-ichi Inami</p> <p>〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1</p> <p>TEL 03-3434-4321</p> <p>FAX 03-3434-4324</p>	<p>銀座 泰文堂</p> <p>〒104-0061 東京都中央区銀座4-3-11</p> <p>松崎煎餅ビル4階</p> <p>㈱銀座泰文堂 代表 川島貴敏</p> <p>TEL 03-3563-2551</p> <p>FAX 03-3563-2553</p> <p>フリーダイヤル 0120-402037</p> <p>http://www.taibundo.com</p>	<p>刀剣 高吉</p> <p>古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!</p> <p>連絡先 090-8845-2222</p> <p>代表者 高島吉童</p> <p>東京都北区滝野川7-16-6</p> <p>TEL 03-5394-1118</p> <p>FAX 03-5394-1116</p> <p>www.premi.co.jp</p>
--	---	--

イベント・レポート

講座「日本刀・神の宿り」美術工芸部

定員倍加するも満員盛況の公開講座

公益財団法人江東区文化コミュニティ財団が平成二十六年に初めて企画した日本刀講座が大好評だったため、昨年十一月から第二回の日本刀講座が江東区古石場文化センターで開催されました。

当初、定員は二十五名の予定でしたが、定員は満員になり、急ぎよ四十五名まで増員されましたが、それでもすぐに締め切りとなり、盛況のうちに講座が終了しました。今回は毎月一回で今年三月まで

五回の講座とし、毎回講師を招いて日本刀を多角的にわかりやすく解説するという企画でした。

また今回のテーマは「日本刀―神の宿りし美術工芸品―」で、一般に多くの方は「刀は武器」という観念が強い中で、本来の正しい日本刀の姿を知ってほしいとの期待が込められました。

十一月は、上臈誠刀匠が講師。刀の製作工程の説明をはじめ、実際に焼刃土の塗り方を披露、刃文

のできる仕組みをやさしく説明、また銘切りの実演もしていただきました。

十二月は、公益財団法人日本美術刀剣保存協会たたら・伝統文化推進課長の黒滝哲哉さんが講師として、日本刀の原材料である玉鋼を取り上げられました。受講生は専門家の詳しい説明とあって、真剣に聞いていました。

一月は、刀剣博物館の見学。展示品を学芸員から詳しく説明していただき、また実際に本物の刀を手にとっての鑑賞もしました。初めて刀を持ったという方も多くい



日本刀講座の熱心な受講風景

て、皆さん大感激でした。二月は、私が講義と刀剣研磨の実演。刀は武器という要素以外に

←次ページに続く

組合こよみ (平成28年3~4月)

3月1日 銀座刀剣倶楽部会場にて『刀剣界』第28号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・松本理事・持田理事・木村隆志氏・土子民夫氏

4日 清水専務理事・松本理事が丸の内法律事務所・森司法書士を訪問

17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加50名、出来高10,406,000円

17日 東京美術倶楽部にて理事会を開催。出席者、深海理事長・猿田副理事長・眞賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・佐藤理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・土肥理事・松本理事・持田理事・吉井理事・大平監事・木村監事

17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第29号編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・眞賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・松本理事・持田理事・大西芳生氏・木村氏・土肥富康氏・土子氏

30日 清水専務理事・松本理事が丸の内法律事務所・森司法書士を訪問

4月1日 銀座刀剣倶楽部会場にて「資格検定制」準備委員会の設立協議。出席者、深海理事長・清水専務理事・生野理事・木村監事

12日 東京美術倶楽部にて「資格検定制」準備会を開催。出席者、深海理事長・眞賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・飯田理事・佐藤理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・土肥理事・松本理事・持田理事・吉井理事・大平監事・木村監事

16日 東京美術倶楽部にて大平監事・木村監事が平成27年度第29期会計監査を実施

16日 東京美術倶楽部にて理事会を開催。出席者、深海理事長・猿田副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・飯田理事・佐藤理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・土肥理事・松本理事・持田理事・吉井理事・大平監事・木村監事

17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加32名、出来高7,857,500円

17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第29号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・生野理事・綱取理事・持田理事・大西氏・土肥氏・土子氏

刀剣・小道具・甲冑武具

目録 飯田高遠堂

代表取締役 飯田慶久

〒161-0033

東京都新宿区下落合3-17-33

TEL 03-3951-3312

FAX 03-3951-3615

http://www.iidakoendo.com

(株)美術刀剣松本

松本 富夫 義行

〒278-0043 千葉県野田市清水199-1

TEL 04-7122-1122

FAX 04-7122-1950

www.touken-matsumoto.jp

『刀剣界』は隔月で発行しています。現在、キャンペーン中につき、ご希望の方に1年間無料でお送りしています。組合員・賛助会員以外の方で継続購読を希望される方は、お名前・送付先・電話・メールアドレス(あれば)を書面でお知らせください。また、お知り合いで刀剣に興味のある方がいましたら、教えてあげてください。(事務局)



九州刀剣会の大会風景

九州刀剣会は、平成二十六年一月に福岡県博多に設立された刀剣交換会である。会主は、東京代々木で日本刀鑲谷を営む鑲谷大輔氏である。東京の人間が九州で会を開くことに驚きを感じた方も多かったのではないかと推測するが、この地を選んだのには理由がある。ここ十数年で九州刀剣界は衰退し、

九州刀剣会春季大会
地元九州の刀剣市場活性化に向けて
ついに九州の地では刀剣会が皆無に近い状態になっていた。市場が冷え込む中で新たに立つ人も現れず、九州の友人や業者らに請われて立つ決心をしたことは、初会のレポートとしてこの紙面でもお伝えした通りである。大会は年に二回、春と秋に行われる。今回も九州刀剣会春季大会が、博多の地で盛大に執り行われた。平会の会場は大博多ビルであるが、大会は博多駅の目の前のTKP博多駅前シティーセンターのホールに移し、いつもより広い会場となった。

京都 アンティークフェア
屈指の規模のフェアに入場者も殺到
第六十四回「京都アンティークフェア」が三月二十五〜二十七日に開催された。出展業者は三百三十店舗にも及び、国内の骨董店のみならず、世界各国からの出店者も見られた。観光バスのチャーター便までが訪れる賑わいで、特に中国からの団体客の多さに驚かされた。過去には掘り出し物も多かったよう、関西近郊の骨董業者も注目のイベントであり、また海外のディーラーも多く、プロ・数奇

美術品と信仰の対象との三要素があるという説明を聞き、その後刀剣研磨の実演を披露。特に仕上げ研ぎには驚きの連続で、大賑わいのうちに終了しました。三月は、刀装具研究家の橋本晴夫先生の講義。大変素晴らしい刀装具を持参して下さり、懇切丁寧な説明で当装具の歴史を堪能していただきました。今回の成功の結果、多くの方々から今年も希望するとのご意見が

平成会
平成会熱海大会が開かれる
恒例の平成会(代表高橋蔵夫氏)熱海大会が四月十日、あたま石亭にて開催されました。ここ数年は、欠かさず開催しています。普段の例会は出来高が今一步の感があり、この大会の上がり一年間食べている、と言われている。交換会は前日のゴルフ組のほか、

九州の潜在的な刀剣市場の活性化を狙った試みは、決して平坦な道ではなかったと、始めるのは簡単だけど、続けるのは大変なことがわかった。九州の潜在的な刀剣市場の活性化を狙った試みは、決して平坦な道ではなかったと、始めるのは簡単だけど、続けるのは大変なことがわかった。

円弱という数字を叩き出した。持ってきてもらった品は、持ち帰らせたくないという会主の姿勢もあり、購買意欲が掻き立てられていたようである。昼休みには、すっかり恒例となったピング大会が行われ、景品には豪華旅行券が十本並んだ。皆さん楽しんでほしいという思いから始めたそう、当選の度に歓声が上がっていた。



多くの出店で賑わうアンティークフェア

多く届いているとのこと、主催側では新たな講師を招いて新企画の日本刀講座を企画中のごです。(研師・白木良彦)

代表 紀伊国屋 松浦孝子
刀剣・宝飾品 高級腕時計・ダイヤ
〒372-0812 群馬県伊勢崎市連取町一八三六一
TEL 〇二七〇二六二七七七八
FAX 〇二七〇二六二八八七八

当日早朝、各地からの荷物を抱えた会員・客員で賑わい、毎年のことながら、品物を並べるお盆が足りない、足りないの騒ぎです。それほど多くの品物も、鑲谷大輔・新堀徹両氏の名コンビのせり・発句にかかると、あっといいう間にお盆が空っぽになります。もちろん大会なので、平安期の重業

事務局〒151-0053 東京都渋谷区代々木四二二二一 一階 日本刀鑲谷 〇三三五〇八五 一三

なんですよ」とも思ったことがある。魅力的な交換会にする苦労は、並大抵ではないであろう。いつも魅力的な生ぶ荷が出るのを運んでも決して無駄ではないと感じていることだろう。九州刀剣市場の活性化が確実に効果を上げているようである。(大西芳生)

(公財)日本刀文化振興協会からのお知らせ

■第7回「新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会」に特別公開部門「Sword Oshigata Art」を新設

第7回「新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会」は昨年同様、坂城町鉄の展示館にて開催します。この展覧会には「Sword Oshigata Art」部門をオープン参加として募集し、同時開催することとなりました。最古の刀剣書と言われる「観智院本銘尽」には、茎の形や鑲目の絵図が記されており、いわゆる「押形」の祖型とみることもできます。その後、時代とともに刀身の形や銘ぶり、刃文などの特徴が実物により近く描写されるようになり、今日では刀身そのものに紙を当て、輪郭と銘文・鑲目を手拓し、刃文は墨絵や鉛筆で細密に描くなど、写真などとは異なる、正確な資料として作成され、巻物や書籍に活用されています。

「押形」はOshigataとして海外でもよく知られています。「押形」は今や単なる資料としての価値にとどまらず、手法による違いはあるものの、その表現には描く人のセンスや高い技術や芸術性が認められています。その目的もさまざま、自分が作った作品や研磨した名刀を記念として手元に残すためや、愛刀の記録を子孫に残すためなど、実に多くの方々が「押形」制作を続けていることがわかっています。しかし、これまで自慢の「押形」が公開される場合はほとんどありませんでした。展示では、日本刀を多くの方々により深くご理解いただくための相乗効果も期待しており、刀剣の世界には「押形」という文化があるということをお知らせし、ぜひ機会ともなるものです。



oshigataはartだ! (押形/左行秀作協指) (桂小五郎所持)

■文化庁事業による部分修復技術研修会

文化庁の平成28年度「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」(伝統芸能等分野)に「刀剣類の保存に関わる部分修復技術研修会」が採択され、実施の運びとなりました。これまで、当協会による国内外の調査事業で多くの日本刀が予算や情報不足等の理由から修復されずに放置され、関係者も危惧する実態が明らかとなっています。その中には部分修復で済むものや、文化財保護の観点からできるだけ現状を保存するために、積極的に部分修復を行うべきものがありました。その修復技術を習得するためには通常の仕事のスキルに加え、特別な技術と判断が必要であり、特に熟達した技術者による指導と助言は不可欠です。この研修は今後毎年実施する予定であり、他の部門(外装等)にも発展させ、実績を重ねることにより全国の博物館・資料館の所蔵品修復に不可欠な人材育成を図っていきます。本研修を修了された方々には修了証を授与し、国内外で活躍することが期待されます。(公財)日本刀文化振興協会 評議員/研師 阿部一紀



多くの参加者で賑わう平成会大会

江州屋刀剣店 小暮昇一
〒529-1131 滋賀県愛知郡愛荘町香掛80-1
TEL 0744914215 1106
FAX 0744914215 1108
携帯 0903316217641

は、高田馬場の諏訪神社で始まった諏訪会です。今は正吉 荒勢英一・山崎昭・齋藤光興の諸氏らにより、そのころ設立間もない全国刀剣商業協同組合の側面支援のために始めた、と聞いています。(服部暁治)

催事情報

■広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上鞆町2-22 ☎082-221-6246
http://www.hpam.jp/

徳川家康没後400年記念「天下太平 徳川名宝展」

元和2年(1616)に逝去した徳川家康の没後400年を記念し、家康が基礎を築いた江戸時代の豊かな文化を紹介し、本展では、家康の生涯や人となりを知ることができる資料、将軍家・御三家などに受け継がれる名宝、太平の世の下、成熟する武家・公家・町人らの文化を表す作品などが一堂にそろう。

信長・秀吉から家康へと渡った茶道具の名品をはじめ、日本一の花嫁道具と称される初音の調度、将軍家の権威を象徴する京都・二条城の障壁画など、広島で初めて公開される国宝・重要文化財を多数ご覧いただけます。

会期：4月1日(金)～5月29日(日) 月曜休館



■立花家史料館

〒832-0069 福岡県柳川市新外町1 ☎0944-77-7888
http://www.tachibana-museum.jp/index.html

よくわかる刀剣のみかた 柳川藩主立花家伝来の刀剣

「雷切丸」をはじめ、国宝「短刀 銘吉光」や重要文化財「剣 銘長光」など、初代柳川藩主・立花宗茂ゆかりの刀剣を中心に、立花家の歴史を

物語る刀剣と刀装具を紹介。わかりやすい解説とともに、刀剣の美しさをお楽しみください。

会期：4月15日(金)～7月4日(月)

■備前長船刀剣博物館

〒701-4271 岡山県瀬戸内市長船町長船966 ☎0869-66-7767
http://www.city.setouchi.lg.jp/token/

特別展「薄桜鬼 刀剣録 ～幕末維新の刀剣展～」

約150年前、日本の方向性を大きく変えた明治維新。幕末には生麦事件や桜田門外の変、薩英戦争など数々の事件が起き、岡山藩では神戸事件を経験しました。

幕末・維新は、西洋から銃器が流入する中、日本刀が最後の華を咲かせた時代でもあります。戦乱の予兆に合わせ、武用には身幅広く大切先の刀が、公家には細身の太刀姿が作られました。火縄銃では、当地は備前筒と言われるほど全国的な産地として有名になり、刀匠から転向した鉄砲鍛冶が名品を残しています。

刀剣は維新の志士たちが最も身近に置き、自らの信念を託した存在です。彼らと関係の深い名刀を、幕末・維新を描いた超大作『薄桜鬼』とのコラボレーションでご紹介します。

会期：7月16日(土)～9月19日(月・祝) 月曜休館



©IDEA FACTORY/DESIGN FACTORY

■大阪歴史博物館

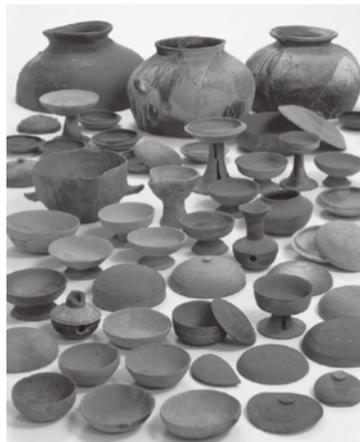
〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32 ☎06-6946-5728
http://www.mus-his.city.osaka.jp/

都市大阪の起源をさぐる 難波宮前夜の王権と都市

645年に難波遷都が行われた大阪の上町台地北部は、これよりもさらに古い時代から政治・外交の拠点が置かれていたことが『日本書紀』に記されています。考古学の発掘成果から、5世紀に倭王権の拠点として国内最大級の倉庫群が設けられ、6世紀から7世紀にかけて、大型建物群・倉庫群からなる中枢部を取り囲んで、ガラス製品や鉄製品などの先端技術を駆使した手工業生産の場が広がっていたことが明らかにされてきました。これらのことから、上町台地北部において、人やモノが行き交う都市的な状況が、難波宮以前に生まれていたと考えられています。

本展覧会では、上町台地の地形・自然環境を復元したベースマップにこれまでの発掘成果を重ねて難波宮前夜の様子を明らかにすることで、上町台地北部が倭王権の拠点として発展してきた過程を示し、大阪における年の始まりに迫ります。

会期：7月16日(土)～8月29日(月) 火曜休館



難波宮下層遺跡出土土器 (古墳時代後期～飛鳥時代)

■東京富士美術館

〒192-0016 東京都八王子市谷野町492-1 ☎042-691-4511
http://www.fujibi.or.jp/

ザ★刀剣 一千年の匠の技と美

一千有余年の伝統を持つ世界に誇る日本独自の美—日本刀。本展では平安時代から現代までの所蔵刀剣の中から重要文化財3振を含む約40振の名品を選び、刀装具や武具・甲冑、絵画・書籍なども合わせて展示します。当館で初めてとなる本格的な刀剣展にご期待ください。

- I 特別出品～伝宮本武蔵所持・名物武蔵正宗と妖刀村正～
- II 名刀鑑賞～重要文化財特別公開～
- III 江戸新刀のトップスター～市徹～
- IV 特設展示・真田丸
- V 八王子の刀～武州下原刀～
- VI 特別出品・新選組～土方歳三の刀～(後期のみ)
- VII 4尺半の大太刀
- VIII 山伝～刀工月山派800年の系譜～

会期：3月29日(火)～7月3日(日)

月曜休館、前後期で展示替えあり



■長岡市柘尾美術館

〒940-0237 新潟県長岡市上の原町1-13 ☎0258-53-6300
http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/?page_id=135

日本刀の美

「日本刀の美」は、日本美術刀剣保存協会長岡支部の協力のもと、平成20・24年に開催し、この度は第3回目となります。今回も日刀保長岡支部会員所蔵の愛刀を中心に展示します。主な作品として、来国次・長谷部国重・大隈掾正弘・繁慶・和泉守兼定、現代刀では天田昭次など県内作家の作品を紹介します。

日本刀は、刀工をはじめ、研師や鞘師、白銀師など、さまざまな職人の手によって、伝統技術を結集して形づくられた結晶とも言えます。もともと武器として生まれましたが、やがて研磨技術の発達とともに美術工芸品としての美しさを見いだし、現代では鑑賞することも目的に世界中で人気が高まっています。

本展では、日本刀のほか、関連する刀装具や武具類なども紹介し、愛刀家はもちろん初心者にも楽しく鑑賞していただけるよう、日本刀のさまざまな魅力をお伝えしていきます。

会期：4月23日(土)～6月5日(日) 月曜休館。毎日曜日解説会あり



武田二十四将 信玄を支えた家臣たちの姿 多彩な史料から戦国最強軍団の興亡を偲ぶ

三月十九日から山梨県立博物館で、開館十周年記念特別展「武田二十四将」が開催されている。

会場に入るとまず「武田二十四将 図」五点と信玄の肖像画が並ぶ。江戸時代に入り、神君家康ですら勝てなかつた武田信玄は神格化され、武田氏の軍学書「甲陽軍鑑」などが武士の間で人気を博し、登場する武将を題材に「武田二十四将図」と呼ばれる絵画や浮世絵が庶民にまで流行る。ただし、登場する武将は同時期に活躍したわけではなく、信虎・信玄・勝頼三代に任えた名將が選ばれており、今大河ドラマで話題の真田昌幸は兄二人とともに描かれている。

次に、信玄や弟信繁・信廉、甥信豊、穴山信君と武田一門の書状・肖像画などが並び、続いて譜代の家臣、他国衆とコーナーが分かれるが、数多くの書状類が残っているのに驚かされる。

信玄は父信虎を駿河に追放した後、二十万石ほどの甲斐一國の領主から破竹の勢いで信濃・駿河・上野・遠江・三河・飛騨・越中と、三十年余りで百二十万石まで領土を広げている。

「人は城、人は石垣、人は堀」に要約される彼の思想により、鉄の結束を誇った武田軍団は戦国最強とたたわれるまでになるが、展示されている信玄と家臣・他国衆とのやり取りの書状・朱印状や信玄を支えた武将が忠誠を誓った起請文などから、向かうところ敵なしの往時の情勢がリアルに伝わってくる。しかし夢半ばで信玄は急死、二年後の天正三年、後を継いだ勝頼は、家康に取り返された奥三河を再奪還すべく長篠城に進軍するが、ここで武田二十四将の

多くが戦死、武田家は弱体化する。勝頼や武田重臣から上杉景勝に宛てた書状が多くあったが、謙信亡き後の上杉と同盟を結んだ様子がかがえる。しかし天正十年二月、天目山の戦いで武田家は滅亡する。展示の最後は、家康の朱印状や景勝の書状などがあり、残った武田旧臣が最終的に家康や上杉ほかの大名の家来となっていた様子がわかる。

刀剣・武具類では、甲斐源氏の祖である源義光着用、武田家の家宝として伝来した「盾無鑑」(複製)や山本勘助所用と伝える刀などが展示されていた。解説もわかりやすく、何より各地から集められた文書から、当時の緊迫した状況や調略の様子などがうかがえ、ドラマを見る以上に面白く、見応え十分であった。

当展覧会は、五月二十三日まで開催しているので、お時間のある方はぜひ足をお運びください。

(木村隆志)